

女子中学生・高校生が取り組む瀬戸内海の海底ごみゼロ大作戦

写真・文 山陽女子中学校・高等学校 井上 貴 司



瀬戸内海は国立公園に指定されており、多くの島が点在するなど美しい景観が広がる海域である。しかし、高度経済成長期には沿岸にコンビナートが建ち並び、瀬戸内海は水質汚濁などの公害に悩まされたのは記憶に新しい。現在、瀬戸内海の水質はずいぶんきれいになったが、新たな環境問題がみられる。それが海底ごみ問題である。

海底ごみは漂着ごみや漂流ごみとともに海ごみの一つである。海底ごみは海底に堆積していることで普段は目視できないので、世間ではあまり認知されていない環境問題である。海底ごみは漁獲量の減少にもつながっている。瀬戸内海には、現在1万3000tの海底ごみが堆積しているといわれている。そして、その7割が陸上を起源としており、河川を通じて瀬戸内海へ流入して、海底に堆積している。

山陽女子中学校・高等学校の地歴部ではこの海底ごみ問題を解決して、美しい瀬戸内海を取り戻すために「海底ごみゼロ大作戦」と銘打って、海底ごみの回収活動に取り組んでいる。回収活動では地元の漁師に協力してもらい、漁船を出してもらう。漁船で瀬戸内海の沖に出てみると、ごみ一つ落ちていない美しい景観が広がっている。漁船からは底曳き網を入れて、海底を擦りながら漁船を進める(写真①③)。数十分後、網を引き上げると、網の中には魚介類よりも多くのごみが入っている。船上では魚介類とごみの分別を行い、ごみはさらに種類ごとに細かく分別をする(写真②)。

回収した海底ごみのうち、大部分がプラスチック・ビニールで、ペットボトル・空き缶もめだつ(写真④)。ときには重量が重い、

バイクのエンジンや電化製品も回収する。劣化が進み分解されたごみや重量がかなり重いごみは引き上げることができず、残念な思いがする。

これらの回収活動を1回に4時間程度行うが、回収量は数kg～数十kgである。陸上からのごみの発生量はこの回収量を大きく上まわる。また、私たちのアンケート調査では海底ごみの認知はかなり低いことがわかっている。さらに、生活ごみが海底ごみになっている事実の認知もかなり低い。そこで、多くの皆さんに海底ごみについて知ってもらう啓発活動にも取り組んでいる。学会などの学術活動を通して伝えたり、地元の新聞等に取り上げてもらったり、啓発教材の「海ごみかるた」を制作したりして多くの人に楽しみながら学習してもらっている。昨年の夏にはアメリカ合衆国で開催された閉鎖性海域の国際会議へ参加させてもらい、国際社会へうったえた(写真⑤)。

啓発活動の成果はアンケート調査に現れ、認知度が大きく上昇している。しかし、より多くの人に海底ごみを知ってもらい、意識を変えてもらいたい気持ちは変わらない。海底ごみは瀬戸内海だけの問題ではない。海は世界中とつながっており、世界の財産である。日本だけではなく、世界の環境問題としてとらえたい。海底が「ごみ箱」にならないように、これからも海底ごみの回収活動と啓発活動に邁進していきたい。今後の女子中高生による「海底ごみゼロ大作戦」にご期待ください。